

## 平成 14 年 10 月 8 日 熊本日日新聞掲載記事

### 川辺川ダム環境対策について

十月八日の熊本日日新聞「読者のひろば」欄に、「荒瀬ダムなど過去に造られたダムにより、不知火海を含めた球磨川流域が大きな被害を受けている。川辺川ダムの影響を真剣に検討してもらいたい。」との趣旨の投稿がありましたので、川辺川ダムの環境対策について、説明いたします。

川辺川ダムの環境対策については、水質や動植物の専門家からなる「川辺川ダム環境保全・創造に関する検討委員会」を設置し、この委員会の指導をいただきながら、最新の知見に基づいた検討を進めてきています。

具体的には、川辺川ダムでは、濁りが少なく適切な水温の水を取水する「選択取水設備」を設置し、さらに、ダムに入ってくる濁りの少ない水を直接ダム下流へ流す「清水バイパス」を設置します。

これらの対策により、濁りや水温などの河川水質を、現状と大きくは変わらない状態に維持します。また、適正な量と質の土砂を下流に供給していくことも検討しています。

八代海への影響については、専門家や漁業者代表、行政からなる「八代海域調査委員会」において、水質シミュレーションを用いて川辺川ダムと八代海域環境との関係確認を行っており、その結果、「水質面で評価する限り、現状とほぼ変わらないことから、影響は無視し得る程度のものと見てとれる」との評価をいただいています。

今後とも、各分野の専門家の指導を受けながら最新の知見を取り入れて調査検討を行い、自然環境に十分配慮したダムづくりを進めていきますので、ご理解いただくようお願い申し上げます。